

租税教育実践レポート

登米市立佐沼小学校教諭 6学年 教諭 行場 二千佳
 実施年月日：令和7年 6月 6日 126名

1 実践計画・指導のねらい

税金が自分たちの生活や社会を支える大切な仕組みであることを理解し、税の役割と必要性を考えるきっかけにする。児童にはもし、税金がなかったらどうなるのかを考えることで、税が安全で安心な暮らしに繋がっていることを実感させる。児童の生活にとって税金は当たり前の存在になっており、じっくり考える機会がなかったため、具体物を使ってお金の重みを感じさせる工夫が大切である。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○), こどもたちの反応 (●), 使用教材等 (□)
1	税について知ろう	○税金は何に使われているでしょうか。 ●市役所や、学校などに使われている。 ○租税教室に向けて、知識を増やそう。 □マリンとヤマトの不思議な日曜日 ・映像資料を利用
2	租税教室	・宮城県東部県税事務所 登米地域事務所から2名の方に来校していただき、専門的な視点から指導をしていただいた。  ○スライドを用意していただき、税の仕組みについて詳しく教えていただいた。 ●実生活と税金がつながり、自分たちの生活に役立てられていることを体感することができた。 

【指導のポイント】<<1時間目>>

・マリンとヤマトの映像は大変分かりやすく、児童が税に対して学ぶきっかけづくりに効果的である。

【指導のポイント】<<2時間目>>

・1億円のレプリカを持ってきていただいたことで、児童の興味関心が高まった。



3 実践の成果 (◎) と課題 (◆)

- ◎実際に1億円のレプリカを用意していただいたことで、児童はお金の重さや価値を実感し、税やお金が社会の中で果たしている役割についてお金の重さや大切さを実感することができた。
- ◎ICTを活用し、児童が視覚的に分かりやすい授業展開を行うことができた。税金生活にどのように役立っているのかを理解することができた。
- ◎税の絵はがきコンクールや標語を出品した。
- ◆体験的・視覚的な教材によって一時的に興味・関心は高まるものの、単元や時間が限られているため、学習内容を継続的に定着させることが難しいという課題がある。
- ◆税に関する学びを一過性のものにせず、他教科や日常生活と関連付けながら繰り返し扱っていく指導の工夫が必要である。